

長崎いのちの電話だより



2024(令和6)年11月5日 発行
臨時増刊号
開局30周年記念特集号

社会福祉法人 長崎いのちの電話

(発行人) 古賀 義 (編集) 広報委員会 〒852-8799 日本郵便長崎北支店 私書箱45号
 TEL 095-843-4410 FAX 095-844-3600 ホームページ <http://ngsk4343.sakura.ne.jp>



主な紙面ご案内

1面 : 理事長挨拶 / 2～4面 : お祝辞
 6～9面 : 『特別企画』
 有永・柿田・湯口さんによる『てい談』
 10面 : 特別寄稿(若林一美先生)
 12～14面 : 評議員さんからのひと言
 16～19面 : 相談員さんの声
 22～23面 : この10年の歩み小史

《ご挨拶》 大きな節目のときに



長崎いのちの電話
 理事長 古賀 義

私は、「長崎いのちの電話」開局当初から養成・研修スタッフとして長くお手伝いをさせていただいておりますが、理論的支柱として先頭に立たれた今は亡き川崎ナヲミ初代会長、事務局長として財政面を支えられた三原茂先生、社会福祉法人化にまさに心血を注いでくださった柴田芳男元県副知事さん等々の真摯かつ精力的なご活動ぶりを目の当たりにしておりました。

私が、前任の中根允文理事長からそのバトンを引き継いだのは2021(令和3)年6月のことです。その際、一番に感じたことは、前述のお三方をはじめ草創期にご尽力くださった諸先輩の「熱量」・「姿勢」が確実に「今」に引き継がれているということでした。

電話相談員さんたちの「365日休まぬ電話」を維持するために営々として日々の電話当番に臨むそのお姿には心より敬意を表します。今年で認定者数は509名となりました。この先も同様にして、先人・先輩方から引き継いだ「いのちの電話」の理念を大切にしてこの活動を継続して行ってほしいと、強く念

じております。

さて、長年、引き継がれてきたものを大事にしてゆくことは勿論大切ですが、それ以上に『今』を見直し、『次』に発展的に繋げてゆく努力もまた欠かせないことであり、それは30年の大きな節目の年に理事長の立場にある私に課せられた大きな使命のように思います。

その意味でも、この「長崎いのちの電話だより・30周年記念特集号」にお寄せいただいたお祝辞をはじめ多くの皆様からのお言葉には、深く感じるものがあります。

若林一美先生のご寄稿にある「通りすがりの見知らぬ人」は、まさに市井の名もなきボランティアによる「いのちの電話」の神髄を言い表すものだと思います。

評議員・9名の皆様全員から一文をお寄せいただきました。そのおひとりお一人のお言葉には「次」を考えるに当たり貴重なご示唆があふれています。今後、早急に検討すべき課題もご提示いただきました。

「鼎談」は、お三方がそれぞれのお立場で「今と次」を様々に考えて下さっていることが窺えて、まさに「特別」な企画で、読み応えがありました。

こうしたお声を糧にして現場で頑張ってくださいている相談員さんらと語り合っ、次なる30年に向けての大きな支柱を打ち立ててゆくこと、そして、財政面を支えて下さっている実に多くの寄付・賛助会員の皆様方にご報告ができるようにすることが、「今」の理事長である私の努めであろうと心新たにしております。

ご関係皆様方におかれましては、引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

〈相談電話〉 **095-842-4343**

年中無休 9:00～22:00 (第1・第3土曜日は9:00～翌9:00)

0120-783-556

※毎月10日 全国一斉フリーダイヤル

8時～翌8時 自殺予防いのちの電話

※コロナ禍 毎日フリーダイヤル 16時～21時

祝 辞



一般社団法人日本いのちの電話連盟理事
社会福祉法人北九州いのちの電話

理事長 中村 純

「長崎いのちの電話」開局 30 周年を心からお祝い申し上げます。理事長様はじめスタッフ、相談員の皆様の長年のご苦勞には多くの市民の方々が感謝されていると確信しています。

最近のボランティア活動は災害救援や貧困などに対するものなど多様化しており、短期間の準備でよい活動もありますが、「いのちの電話」の活動のように一般の人が長時間の研修を受けて、漸く活動できる活動は非常に貴重と思っています。しかも相談員になってからも相談者のニーズに寄り添うため継続的な研修が要請されています。

全国的にどの電話局においても相談員の減少や高齢化で体制維持が困難となる中、「長崎いのちの電話」では電話相談ボランティア養成講座と合わせて、佐世保市に新たな拠点を設けて人員確保に力を入れようとされると聞いております。その努力に心から敬意を払い

たいと思います。「長崎いのちの電話」は 1994 年 11 月 5 日開局され、年中無休で午前 9 時～午後 10 時まで相談を受け付け、毎月 10 日と第 1、3 土曜日は 24 時間体制でさまざまな悩みに向き合っておられます。新型コロナ禍で相談体制を縮小した 2021 年度を除き、対応件数はここ数年 1 万件前後で推移しており、2023 年度は 9296 件で、うち自殺に関する内容は 7.5% に当たる 701 件とのこと。「長崎いのちの電話」の積極的な取り組みを長崎だけでなく西九州全体の皆さんにも広く知って頂くことが重要なことだと思います。これまで、この活動を理解し、指導されてきたスタッフの皆様、経済的な援助を継続して頂いている皆様にも心より御礼を申し上げます。個人的には仕事の上でお世話になっていた前理事長の中根允文長崎大学名誉教授が「長崎いのちの電話」でご活躍でしたので「長崎いのちの電話」には親近感を抱くと共に私自身の活動にも強い味方を得ていると思っていました。

この 30 年間には様々な事件や事故、災害、2019 年末からは、新型コロナ感染症流行による社会、経済の変化などがあり、「いのちの電話」の活動にも多くの試練や、電話相談体制にも変化があったことと思いますが、今後とも時代にあった体制づくりを「いのちの電話」連盟は目指していきたいと思っています。

これまでの「長崎いのちの電話」の活動に敬意を払い、今後の益々のご発展を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

九州・沖縄地区いのちの電話一覧 (長崎いのちの電話を除きます)	名 称	相談電話番号	受付時間	フリーダイヤル
	北九州いのちの電話	093-653-4343	24 時間	0120-783-556 毎日 16:00~21:00 毎月 10 日 8:00~ 翌 8:00 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」は、様々な困難や危機にあって、自殺をも考えておられる方の相談電話です。 全国のいのちの電話で受けています。
	福岡いのちの電話	092-741-4343	24 時間	
	佐賀いのちの電話	0952-34-4343	24 時間	
	熊本いのちの電話	096-353-4343	24 時間	
	大分いのちの電話	097-536-4343	24 時間	
	宮崎いのちの電話	0570-783-556	《火 木 土 日》 18:00~ 翌 4:00 《月 水 金》 21:00~ 翌 4:00 《受信可能地域》 宮崎・熊本・鹿児島・大分	※フリーダイヤル相談では、長時間、多数回利用の方に一定期間お休みを取って頂く仕組みを導入しています。
	鹿児島いのちの電話	099-250-7000	24 時間	
	沖縄いのちの電話	098-888-4343	10:00~23:00	

祝 辞



社会福祉法人長崎県社会福祉協議会
会 長 濱 本 磨 毅 穂

社会福祉法人長崎いのちの電話の相談電話が、開局30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。長きにわたり、多くの方々に寄り添い続けてきたその活動は、地域社会においてかけがえのない存在であり、孤独や不安を抱える方々が声を上げられる場の提供となっています。その背景には、専門的な知識と高い倫理観を持った相談員の方々の献身的な努力があることは言うまでもありません。多くの人々に希望と救いを提供されてきたその取り組みに、心からの敬意を表します。

長崎県における自殺者数は、平成16年前後をピークに、減少傾向にあります。これは、地域社会や多くの関係機関による啓発活動や、相談窓口の充実といった取り組みの成果の表れであり、まさに貴法人が30年間にわたり、様々な人々の心の声に耳を傾け、共感と思いやりをもって支援を行ってこられた結果のひとつだと思います。

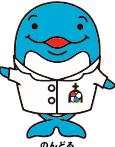
ただ、依然として特定の年齢層や性別において自殺

者数が高い傾向が見られ、特に中高年男性においてその割合が顕著であり、深刻な社会問題であることに変わりはありません。社会は多様化し、孤立を感じる人々も増加しています。相談電話の利用者は、心の悩みを抱えた多様な背景を持つ方々であり、それぞれに抱える問題は一樣ではなく、その支援には心理的サポートの強化と、地域に根ざした支援体制の構築がますます重要となると考えられます。

私たち社会福祉協議会は、様々な困難を抱える方を社会的、また経済的に支える事業を推進し、地域福祉の力で、「安心して暮らせる社会づくり」の実現を目指しています。これは、貴法人の「いのちを尊重し大切にする姿勢」と志を同じくするものです。本年6月には佐世保分室も開設されたとお聞きしました。相談の輪を広げて、支えあう地域づくりに向けて、今後互いの活動がさらに充実していくことを願ってやみません。

開局30周年の節目において、改めて、その歴史の重みと取り組みの意義を再認識するとともに、長崎いのちの電話のさらなる発展と、皆さまのご健勝を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。



一般社団法人 長崎県医師会 会 長 森 崎 正 幸 〒850-8532 長崎市茂里町3番27号 TEL 095-844-1111 FAX 095-844-1110	相談電話開局30周年 祝 一般社団法人 佐世保市医師会 会 長 鷺 峰 久 紀 〒857-0801 佐世保市祇園町257番地 TEL 0956-22-5900 FAX 0956-22-5952	一般社団法人 長崎市医師会 会 長 松 元 定 次 〒850-8511 長崎市栄町2番22号 TEL 095-818-5511(代) FAX 095-818-5633
一般社団法人 長崎県歯科医師会 会 長 渋谷 昌 史 〒852-8104 長崎市茂里町3番19号 TEL 095-848-5311 FAX 095-846-0175	一般社団法人 長崎県薬剤師会  会 長 田 代 浩 幸 〒852-8104 長崎市茂里町3番18号 TEL 095-847-2600 FAX 095-848-6160	 あなたと創るあすのふるさと 長崎新聞社 代表取締役 徳 永 英 彦 〒852-8601 長崎市茂里町3-1 TEL 095-844-2111

祝 辞



公益社団法人長崎法人会

会 長 森 拓 二 郎

「社会福祉法人長崎いのちの電話」が本年11月5日に相談電話開局30周年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。また、これまで365日休むことなく営々として受話器を握り続けて来られた500名に近い相談ボランティアの皆さんには心より敬意を表しますとともに、相談員養成研修或いは継続研修を担って下さった講師・バイザーの先生方、運営を担ってこられた役員・評議員各位や運営ボランティアの皆さんに感謝と心よりのお労いを申し上げます。

振り返りますと、本会が開局を追うようにして貴会の支援に当たらせていただくようになったのは、1996(平成8)年のことです。

令和6年度の本会の事業計画書の中にも、公益目的事業の一環・「地域社会への貢献を目的とする事業」の第5項として次のような一節があります。

「長崎いのちの電話その他社会福祉事業団体の支援」。

この地域社会貢献活動は、全国の法人会が、単に「健

全な納税者の団体」「よき経営者を目指すものの団体」として活躍するだけでなく、地域に密着した活動を通じて更に広く社会への貢献を目指すことを目的としてスタートした運動の一つですが、本会は地域社会貢献活動のコンセプトを「社会に余り知られず、それでいて有意義な活動を続け、継続的に経済的な支援を必要とする事業」と定めました。

平成8年当時の本会の諸先輩方は、無償の電話相談ボランティア活動に精励し、まさに名もなき隣人としての活動に徹する貴会の活動ぶりを知り、財政的にも遍く浄財を募り自立の道を歩まんとするその姿勢に触れて、地域社会貢献事業に最もふさわしいものとして長崎いのちの電話への支援活動を選定しました。

そしてこの基本姿勢は変わることなく代々の長崎法人会メンバーに受け継がれて、以来、28年。貴会の歩みを見続け・見守り続けて今日に至っております。

全国の自殺者数は、一時期の高止まり状態を脱しているとはいえ、今も交通事故死の5倍を超えます。子どもたち、女性の自殺者数の相対的増加もとても案ずるところです。

「様々な悩みや不安を抱え心理的に追いつめられた状態にありながら、身近な相談相手もなく絶望したり、生きる気力を失いかけている人たちに訓練を受けたボランティアが電話を通じて相談相手となり、ともに考え、助けあって苦境を乗り越える、市民によるボランティア活動」としての「いのちの電話」の本旨を貫き、「次の30年」に向けて着実な歩みを続けて頂きたい、と心より念願するものです。

 公益社団法人 長崎法人会 会長 森 拓 二 郎 〒850-0031 長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル6階 TEL 095-825-8091 FAX 095-828-0419	 相談電話開局30周年 祝 順不同	 公益社団法人 佐世保法人会 会長 吉澤 俊 介 〒857-0042 佐世保市高砂町4番18号 アボード高砂2階201号 TEL 0956-22-3036 FAX 0956-23-5351
長崎県司法書士会 会長 入 山 和 明 〒850-0874 長崎市魚の町3番33号 長崎県建設総合会館本館6階 TEL 095-823-4777	長崎県土地家屋調査士会 〒850-0031 長崎市桜町7番6-101号 TEL 095-828-0009 FAX 095-828-2629	公益社団法人 長崎犯罪被害者支援センター 理事長 前 田 和 明 〒850-0057 長崎市大黒町3番1号 TEL 095-820-4978 FAX 095-820-4377
 Rotary 長崎北ロータリークラブ	 あなたに夢を届けます たちばな信用金庫 理事長 塚 元 哲 也 〒854-0053 諫早市小川町52-1 TEL 0957-22-1379 FAX 0957-22-7415	 株式会社 文明堂総本店 〒850-0861 長崎市江戸町1番1号 TEL 095-824-0111 FAX 095-824-0006

弁護士法人 ふくざき法律事務所 代表弁護士 福崎 博孝 〒850-0034 長崎市樺島町4番6号 ソフィアビル2階 TEL 095-824-8186 FAX 095-824-8286	相談電話開局30周年 祝 順不同	千住博 内科 〒857-0862 佐世保市白南風町6番2号 TEL 0956-22-8632
明練寺 住職 村田 孝仁 〒852-8032 長崎市江里町17-28 TEL 095-844-2353 FAX 095-843-0074	医療法人 稲仁会 三原台病院 理事長 出口 剛 〒852-8123 長崎市三原1丁目8番35号 電話 095-846-8111 FAX 095-843-0080	木村内科循環器科 木村 幹史 〒859-4536 松浦市調川町下免91番地 TEL 0956-72-1101 FAX 0956-72-2268
(有)グループホーム 元気の家 代表取締役 施設長 金子光代 〒859-4511 松浦市志佐町赤木免253番地 TEL 0956(72)3811 FAX 0956(27)9766	株式会社 イシマル 代表取締役 石丸 太望 〒851-0134 長崎市田中町587番地1 TEL 095-834-0330 FAX 095-834-0331	園田司法書士事務所 司法書士 園田 英昭 〒850-0853 長崎市浜町2番17号 五島ビル702号 TEL 095-832-4123 FAX 095-832-4124
光洋石油株式会社 専務取締役 寺田 治之 〒850-0035 長崎市元船町2番20号 TEL 095-826-8195 FAX 095-825-4987	医療法人 五省会 精神科 廣中病院 理事長 廣中 郁朗 〒851-0252 長崎市田手原町811番地9 TEL 095-825-1364 FAX 095-825-0605	医療法人 はやし小児科 林 克敏 〒851-0115 長崎市かき道1-33-12 TEL 095-830-2380 FAX 095-830-2381
医療法人 介護・就労支援施設 併設 すがさきクリニック 心療内科・神経科・精神科 院長 菅崎 弘之 〒850-0841 長崎市銅座町4-14 青木ビル4F 西浜町電停目の前 ご予約はこちら ☎ 095-820-1162	崎永海運株式会社 会長 崎永 剛 〒850-0936 長崎市浪の平町4番11号 電話:095-825-8343 FAX:095-825-8097	虹が丘病院 救急告示病院 内科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・泌尿器内科・産婦人科・皮膚科・整形外科・小児科・眼科・放射線科・リハビリテーション科 〒852-8055 長崎県長崎市虹が丘1番1号 TEL:095-856-1112 HP:https://www.nijigaoka.or.jp/
SASEBO FRONTIER LAW OFFICE 佐世保フロンティア法律事務所 長崎県弁護士会所属 代表弁護士 渡会 祐二 長崎県弁護士会所属 副代表弁護士 馬渡 圭一 〒857-0862 佐世保市白南風町1-13 JR九州佐世保ビル3階 TEL 0956-59-7986 FAX 0956-59-6766	TKC コンピュータ会計事務所 松村博税理士事務所 総合福祉研究会会員 所長税理士 松村 博 事務所/〒857-0044 佐世保市相生町2番21号新良ビル2F TEL 0956-26-0384 FAX 0956-22-2199 E-mail: matumura-hiroshi@tkcnf.or.jp URL: www.tkcncf.com/matumura/pc/ 税に関することはお気軽にご相談ください。	社会福祉法人 笑顔会 理事長 仲尾 勝利 〒857-0813 佐世保市小佐世保町428-10 TEL 0956-24-6887 FAX 0956-56-8808
九州ガスグループは「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成にチャレンジします 九州ガスホールディングス 九州ガス株式会社 九州テクノ株式会社 KENKO 株式会社ケンコー 株式会社西沢工業 株式会社 脳電設 株式会社九州メタルテックス 九州興産株式会社 なるみライフサービス		

特別企画

【てい 談】



有永 裕之氏
スーパーバイザー／
長崎市社会福祉協議
会主幹

湯口 隆司氏
評議員／学校法人
活水学院理事長

柿田多佳子氏
副理事長・研修委員
長／元児童相談所
所長

『長崎いのちの電話』に長く関わって下さっている3名の方に「①いのちの電話との関わり ②現状への思い ③これからの期待や希望」等を中心にお話をいただきました。

I. いのちの電話或いは長崎いのちの電話との関わり

柿田：今日は、紙面の都合もあって、「自由闊達に」という訳にも参りません。3つのテーマに絞っての鼎談とさせていただきます。まずは、「いのちの電話との関わり」について、50音順で有永さんからお願いします。

有永：私は、相談員ボランティアの1期生です。32歳から相談員を始め、52歳になった年に仕事が忙しくなり親の介護も重なったので退会をしております。相談員応募動機は、20代の頃から福祉事務所のケースワーカーとして働きながら心理学等の勉強会に参加して、「学んできたことをボランティア活動に活かしたいなあ」、「少しは社会の役に立てたらいいなあ」という軽い気持ちでした。退会して10年。スーパーバイザーとして5期目を担当させて頂いております。

柿田：児童相談所に長く勤めておりましたので、養成講座の中の虐待に関するテーマ担当の講師という形でお声をかけて頂いたのが最初の関りでした。その流れの中で、グループスーパービジョンのバイザーとしてお声掛けを頂きました。虐待問題が年々社会的にクローズアップされて児相の業務が非常に忙しくなり、一旦リタイアし、県庁を退職後にまたバイザーとして復帰。今は3期目です。理事、そして副理事長を拝命し、更に研修委員長も今年度からさせて頂く事になりました。正直言って、相談員としての経験が無い中で、無いからこそ見えるものとかも有るかなと思って、ずっといのちの電話と関わってきたつもりです。

湯口：日本で「いのちの電話」ができたのが1970年初頭でしたが、私が東京のルーテル教会に行きだした20歳そこそこの時期です。実はその教会の入るビル3階に「東京いのちの電話」がありました。ビルの2階は教会の礼拝堂があり、日曜日は10時半から礼拝がありました。時

折礼拝に出てくる見慣れない人がいました。後で知ることになりますが、東京いのちの電話の草創期から関わっておられた斉藤友紀雄さんでした。礼拝が終わればすぐに上の階に上がっていかれました。

卒業後に私はラジオ伝道の「日本ルーテルアワー」に務めましたが、偶然にも同じビルに当時はルーテルアワーのスタジオや事務所がありました。番組の収録は夜で、9時・10時に終わります。ビルを出る時にまだ相談員の方がいるのですね。大変な仕事だと思いつつ自動ロック付きのビルの扉を閉めて薄暗い外に出ていました。

私は私立中高の民間校長に転職したのち、2008年に東京いのちの電話の評議員となりました。設立時からルーテル教会はいのちの電話と関係があったようで、ヘッドカンパ宣教師が電話を立ち上げる際には資金の調達の必要があり、家内の母親はクッキー焼きに毎週出かけていったと聞きました。

2011年に埼玉から長崎に活水の校長として赴任しましたが、活水同窓会や中高の校医をお願いしていた押淵礼子さんが長崎いのちの電話に係わっておられ、彼女から評議員に推されたのだと思います。お二人と違い、私のいのちの電話との関わりは偶然の産物的なところがあるように思えてきます。

柿田：いや、でも、日本のいのちの電話の萌芽のところで関わっておられるというのは、すごく深い。

湯口：いのちの電話との関係は教会員の目から見ればとても自然なものと思えてきます。隣人を愛する、隣人を自分を愛するように愛するという教え、あるいはそれはむしろ恵みであるというのが教会の考えです、だから人のいのちあるいはそれに寄り添うというのはいのちの危機にある状況では当然な姿なのだろうと思います。それが実際にできるかどうかは大きな落差があると思います。ですから相談員のかたには頭が上がりません。ですから私のような評議員の役割は何なのか、東京でも長崎でもずっと考え自問し続けてきました。



柿田：ある意味それぞれ立場というか、こう関わり方が違うということも興味深いことですね。

湯口：90年代後半から Windows95 が広まりインターネットが仕事に必須となり、2000年にはいると一挙にメール

だけでなく SNS が一般的になり始めました。東京の評議員会でも都からの補助で若者向けのネットによるパイロット相談を実現しようという議論が起こった時期でした。2011年に長崎に移りましたのでその後の東京の経過は分かりません。でもラジオもそうですが、テレビが出てきてもメディアとしての存在は消えていません。用途が異なっただけで、メディアは相互補完しあう性質があると思います。だから新しいメディアが出てきても声を伝える電話の存在は消えることはないでしょう。ただ状況に適した使い方の変化は当然あると思います。電話の1対1の対話型メディアとしての有効性、安全性、臨場性の特徴はインターネットにはない特徴だと思います。

有永：相談員の頃、色んなジャンルの専門家や高名な方が関わって下さるといことがすごい心強かった。

Ⅱ.「いのちの電話」の現状への思い

柿田：今、副理事長とか研修委員長として関わっていて、もう少し情報交換とか情報共有とかを活性化できるとよいなと思っています。例えば、相談員さん達が日々の活動の中で、どんな事を思っておられるかとか、こんな事がもっとあればいいと思っておられるかとか、不安とか不満も含めたマイナスの部分もだし、逆にこれがあるからいのちの電話の活動をやっていけるんだというプラスの部分について、もっとこういう経験をシェアする機会があるといいなと思われるか、そういう事を共有する機会があると良いなと感じています。

研修の視点で言えば、相談員継続研修の中心となるグループスーパービジョンのバイザーの先生方にも、ご自分が担当するグループだけじゃなくて他のグループの状況とかバイザー同士の感じていること、問題意識であるとか喜びであるとか、それぞれの立場を超えてお互いに共有したりとかがあると、もっと厚みが増すというか膨らむというか、新たな展開が期待できないかなという風な気持ちがあります。

それから、いのちの電話の創成期から続く理念や理想といったものが、時代と共に変化を遂げるのかどうか、変化した方がいいのかどうか、長崎いのちの電話に関わっている皆さんはどう考えているのだろうか、などと思います。

湯口：東京の評議員の時に大きなインパクトを受けたのが東京いのちの電話主催のチャリティ落語会でした。

前座さんからおなが痛くなるほど笑った落語会で、また来年も行きたいと思ったものでした。もちろんバイオリンのコンサートなども東京いのちの電話は開催していましたが、私には落語のほうがむしろ出かけやすい気持ちもありました。喜怒哀楽こそが本来の人間らしいことですよね。自殺予防の活動だから、笑い楽しむのはご法度というのはどうも硬直的ですし、何より電話の固定的イメージとなってしまう。だから東京いのちの電話の落語会の発想は素晴らしいと思いました。

特に理事や評議員、またいのちの電話を支援する人々は、いのちの電話を支える輪を広げる一助として笑い楽しむ機会と場所をつくり、支援者を増やし、盛り上げるのも大切だと思い知らされました。パブリック・リレーション（広報）とは文字通り公的な関係作りの仕事だと思っています。

人と人との繋がり方で一番良いのは対面ですよ。それが表情もわかるし、コロナ禍の時に大学でオンラインでやった時に一番困ったのは表情が全く分からないじゃないですか。それを、相談員さんは、声だけでそれを聞き取るというのはとてもすごい技術だと思います。

柿田：私もそれは思います。対面相談の現場から来たので。

湯口：時間の共有という要素も電話のすごいところだと思います。同じ時間をたった一本のラインだけで共通の

時間空間の中であくせくしないで時を過ごす。共時的な関わりはいのちの電話の特徴ですね。

有永：相談員の気持ちから言うと、色んなジャンルの専門家の方とか、高名な方が色んな立場で関わって下さったり、幅広く市民の中から支えられているという事がすごく心強い気がしたのです。今でもそうです。

湯口：関わる時の敷居をどれだけ低くできるかというのが1つのテーマかなと思います。とても皆さん共感すると思うのです、大事な部分でね。けどどうやって関わるのかと、1つは募金に関わるとかね。やっぱりそのためには広報の部分がどうしても必要だろうし、その中に落語もあるのかなと。

柿田：じゃあ次、有永先生のお話聞いて、また皆で相互にやり取りしましょうか。

有永「相談ボランティア」期生として研修のお手伝い
柿田「相談員経験無いからこそ見えるものもあるかと」
湯口「東京いのちの電話開設当初からの長いお付き合い」

有永：いのちの電話の社会的な役割というのは、悲しさとか辛さとか寂しさを抱えた人々の社会的な心の受け皿になることで、それが自殺予防に繋がるのではないかなと思っています。私の経験上、いのちの電話では解決が困難な悩み、悲しさ、寂しさを抱えたコーラーから多くの相談を頂くのですけども、アドバイスが効果を上げる事が少なく、アドバイスをしても後日同じコーラーから同じ内容の電話を受けることが多くあるのです。こういう経験を重ねるうちに、コーラーに必要なのはアドバイスではなくて、「自分の辛い気持ちを分かってくれる人がいる」とコーラーに感じてもらう事であり、それがコーラーの心の支えになるのだと思うようになったのです。対話によって心の絆が生まれ、気持ちが整理されることが自殺を予防し、コーラーが問題に直面して前に進むきっかけになるのだと思います。

いのちの電話は相談先というよりは「心を吐き出す場所」だと思います。どれだけ心を吐き出せたかどうか、表現できたかどうか、それが相談員の相談の結果を計る物差しでもあると思います。

そこで今の相談員の皆さんに少しお願いしておきたい事は、相談を聴くときは、コーラーが今日は何を言いたくて電話を掛けてきたのだろう、どんな気持ちで掛けてきたのだろうという関心を最後まで忘れずに、話をそらさずに気持ちを受け止めて聴いて頂きたいという事です。こういう相談員の1つ1つの活動がいのちの電話の社会的な心の受け皿としての役割を果たして自殺予防に繋がるのだと思っています。

柿田：ありがとうございます。相談員を経験しての血の通ったお言葉が有難いです。

有永：4月に「公開ミニ講演会 in 佐世保」で柿田さんが仰ったのは、いのちの電話の相談員は匿名のボランティアで報酬が無い。自分がボランティアであることも明かすことが無いのだと。非常に厳しいけれども純粹

柿田：(全国のセンターで色々な試行錯誤があったけど)一周廻ってやはり『電話』じゃないの? って気がして。

性が高いボランティアであるという事を仰ってたと思うのです。私自身も、いのちの電話は実は「名も無き隣人」だと感じています。自分がボランティアしてますという事を誰にも言わないし、こういう苦勞をしてるんですという事を誇ることも無いですね。本当に無名の隣人として、名も無き隣人として定期的に相談室にやってきて相談して帰る、淡々と日常を繰り返すという名も無き隣人としての仕事にすごい尊さがあるのではないかなと思っておりまして。ちょうど柿田さんの講演でも同じような事を仰ってたので、ああ共感するなと思っていました。

柿田：4月のミニ公開講演会では「傾聴」というテーマでしたし、そこを丁寧にお話したつもりです。相談機関にいた私としては、相談機関に来れる人はそういう能動性が発揮できるとか、相談に来るだけの支援を受けられる訳ですよ、誰かに連れて来られるにしても。一方で、コーラーはそういう伝手も機会も能力という力も無いなかで、一人で抱えていられない、このままでは潰れるという時に電話線という細い糸を伝えて誰かに聞いてもらおうというのを選んでる人達だと思うので、まずはとにかく聴く事、受け止める事っていうところの原点が傾聴だろうという事で話させて頂いたところでした。

『相談』という呼び方にどうしても惑わされるというか、相談を受けたからにはそれを解決しないといけないとか、この人の役に立たねばいけないという直接的な相手の悩みを解決する事っていう風に思ってしまうがちなのだと思うのですよ。それはボランティアの方々が本当により純粋で志が高いからだ、そこは重々承知なのですが……。中々そこら辺が皆さんが一生懸命であればあるほど一歩進んで何ができないかっていう所とのせめぎ合いみたいな感じはスーパービジョンをしていると思うのですけど。

湯口先生が仰ってる東京の落語会とかありましたけど、確かに相談ボランティアだけがいのちの電話の参画では無いと思うので、相談ボランティアは出来ないけど応援はしたい人達に何か関わってもらってというそういう方法や、その選択肢がもっと広がるといいなと思いますね。

Ⅲ. これからの期待や希望について

柿田：これからのいのちの電話への期待とか希望ですね、30周年を迎えて更に今後どうなっていくのか、どうなっていくのが良いのか、どうなって欲しいのかみたいところ、じゃあ湯口先生から順にお願いします。

湯口：今年7月中旬にアメリカでの宣教師のリユニオンに行ってきました。日曜日の礼拝で近くの教会に誘われていきましたが、教会の入口にノアという名のゴールデンレトリバーが座っていてしっぽを振っていました。ノアを教会に来た人が抱きついて、牧師と挨拶して礼拝堂に入っていました。このようなワンちゃんがいる教会の光景は以前はなかったです。いま全米で130頭のゴールデンがComfort Dogと銘打ったミニストリー、つまり

教会による奉仕の一環でルーテル教会の礼拝や学校などに参加しているとのこと。

正式には「K-9 ミニストリー」と称していますが、英語の「ケイナイン」という発音はラテン語で犬のことです。ドッグと呼ばずに敬意を払っている感じがします。実は飛行場のコンコースにも旅行客が自由に抱ける(Pet Me)表示の元で、大型のワンちゃんが座っていました。

教会の伝道としてのK-9はことば中心の教えや癒しから多様な癒しを提供する方向に向かっていると感じました。言葉で話してもおそらくワンちゃんは十分には分かっていないと思いますが、ひとがワンちゃんを抱くことはアニマルセラピーの一つなのでしょうね。それは先ほどの電話による相談員の方がたの傾聴の行為と同じように感じました。

有永：これからのいのちの電話への期待、希望と言うよりは、課題と魅力についてお話しします。いのちの電話の長年の課題は、ご存知の通り相談員数の伸び悩みなので、少しでも相談員の仲間が増えて欲しいのです。長年相談員をしていて感じた事は、「電話相談員ボランティアは、簡単ではないけど魅力がありますよ」という事です。

私が相談員をしていた時のエピソードですが、ある女性相談員が相談員になって数年後の事です。妹さんから「ねーちゃん何か変わったね」って言われたそうなんです。ちょうどその頃、私もその人に対して、物腰にゆとりや柔らかさが増したんじゃないかなと感じていたのですね。心の懐が深くなってらっしゃる。

人の心に向き合うということは自分の心の修行でもあると感じてます。電話相談員さんは、1つ1つの相談を通して緩やかに少しずつ成長していくように思うのですよね。相談員は傾聴の基本である相槌とか繰り返しとか要約などの面接技法の習得に努めるだけでなく、知識や感性を磨いて自分の心の在り方を見つめながら前に進む必要があるのですね。これは武道等と同様に「相談員道」とも言うべき終わりのない修行の道だと思うのです。その修行を続けていると人は変わっていくのですね。私が20年間相談員をやって感じた事は、①活動を通して自分が成長すること、②同じ志を持った仲間との絆があること、③時には相談を通して喜びがあること。この3つが相談員の見えない報酬であり、やりがいだということです。このてい談を読んでらっしゃる方にお伝えしたい事は、もし自殺を予防したい、相談を通して社会の役に立ちたい等のお気持ちを少しでもお持ちなら、このような3つの魅力も考慮いただいた上で是非いのちの電話の相

柿田「相談員さんとの情報・意識共有を大事にしたい」
湯口「活動支援の輪を広げる方策は何かを考えたい」
有永「名もなき隣人としての活動続けていってほしい」



湯口：オンライン授業では表情が分からなくて困った。相談員さんは声だけで分かるってすごい技術だなと。

談員や相談活動を支える運営ボランティアにご応募頂きたいと思うのです。参加した先には何か魅力があります。是非お仲間になって頂きたいという事をお伝えしたいなと思っております。

柿田：ありがとうございます。

湯口：すごいままとまっている。

有永：魅力が伝わらないとボランティアの応募に繋がらないと思います。一歩踏み出す勇気というのは中々出ないですし、ちょっとでもやってみようかなというお気持ちに繋がれば良いなと。あくまでも対象者のお気持ちを支えるということが目的ではありますが、それをするためには自分自身も学んで変化していかないとはいけませんので、それは両輪だと思うのです。支えたい気持ちと自分自身も研修しながら学んで進みたい気持ち、その両輪があってこそいのちの電話のボランティアの質が上がっていくので、その事を一緒に目指す仲間になって頂きたいな、という事を思います。

柿田：最後に私なんですけど、内部向けの広報紙の1月号に30周年を頭に置いて年頭の言葉を書きました。

いのちの電話がどんなものかというところ、それは変わらなく続いていくのではないかと。30周年はある意味めでたい、30年も続いたという事はそういう実績だし、とても素晴らしい事だけど、ボランティアさんが日々受ける電話は今年も31年目、32年目もそれは変わらず、淡々と続いていくだろうなというような事を書かせて頂きました。そういう意味でいのちの電話が今後どうなっていくかと言う時に、基本理念、基本的な在り方は変わらずに、逆にそれを事あるごとに確認しあいながら皆がそうだよなって納得できる形で進めていってほしいなと私としては思ってるのです。

普遍的なものは普遍的なものとして、でも今じゃあそれだけでいいのか、他に成長していくとか組織として変わっていくべきところはないのか……、と。これからは色んな変わる部分というか新たに付け加える・取り込める事とかを見つけて着実に進めると良いのかなという風に思います。

もう1つ、仲間を増やすこともですけど、減らさないというのも大事な事だと思っていて。仲間になったら仲間同士で支え合ったりお互いに魅力を確認しあって、この場から離れなくてすむような仕組みというか、そういうのを作る色々なサポートを考えるという事とか、それは継続研修のグループスーパービジョンもその一環だと思っています。

もう1つは、佐世保分室のスタートです。電話を受ける場が長崎に1箇所しか無いということだと遠隔地の人が非常に来づらいとかハードルが高くなるという事にな

ります。そこで、まずは県北にもう1つ拠点を置いてみよう。その意味で佐世保分室は将来に向けての大きな一歩かなと感じています。

大事なこと普遍的なことを守りつつ、変わる変わる方が良いとかプラスした方が良い事をどんどん見つけて確実にやっていくみたいなのがこれからのいのちの電話への期待というよりも希望というか、そういうところかなと思っています。

では、色々話題になった事を振り返りながら最後皆さんでシェアしてお終いにしたいと思います。

湯口：いのちの電話のミッションステートメントの確認ですね。例えばそれが電話なのかLifelineなのかというところだけでなく、今後業務の在り方として組織目的の議論に直結しますね。その確認から議論をきちんと進



めていく必要があると思います。大学とか学校でいえば、所謂「建学の精神」にあたります。とにかくそこを外してはダメだというのが我々身に染みているのだけど、危機的になればなるほど、少子化になればなるほど「建学の精神」に立ち戻る、教育の存続に関わる部分です。いのちの電話もミッションステートメントがあるのであれば、そこをきちんと議論し、関係者が自分のこととして考える、それじゃあ、どのメディアを誰に対して、訴求対象が誰なのかというのを決めて相応しいメディアを使うというプロセスに当然なと思います。30年だから丁度いい機会かもしれませんね。その部分がどうなっているのか。

有永：設立目的ですよ。何のために我々はこの法人に参加してこの活動をしているのか。それを押さえるのは非常に大事な事だと思います。そこからですもんね。湯口先生が仰られた事は非常に大事な事だと思います。

柿田：私個人的には、『一周回ってやはり電話じゃないの』という気はしてるのですよね。メール相談に取り組んでいるセンターもあると聞いてますけど、やっぱりこの時間を共有することに意義があるんじゃないかなというのを強く感じていてですね。細い線を伝ってこっちとあっちに居るというそういう抽象的な意味での息遣いをお互いに感じるみたいなのが、このいのちの電話の醍醐味でもあり一番大切にしたいといけない部分なんじゃないかなって私としては思ってるのですけど、皆さんがどう思うのかとかそこは良い機会なのかもしれないですね、これからっていうのを考える時に。

と言うことで、本日の鼎談はお開きとさせていただきます。ご多忙の中、お二人ともありがとうございました。とても参考になる良いお話を聞かせて頂きました。



湯口「今こそミッションステートメントの再確認が必要」
有永「活動は自己成長の場。是非お仲間に加わって！」
柿田「電話線通じて伝わる息遣いを感じるこの醍醐味」

特別寄稿

〈相談員の皆さんへ〉

昨春の公開講演会の講師・若林一美先生から開局 30 周年に際し、珠玉のお言葉を寄せて頂きました。(講演録は HP でご覧ください)



慰めの言葉

子どもを亡くした親の会のなかで

ちいさな風の会世話人

代表 若林 一美

私たちは、「慰めの言葉」を持つのだろうか、ということを考えることが多い。

30 周年を迎える「長崎いのちの電話」が始まったのとはほぼ同じ頃から、目的や対象は異なるが、我が子と死別した親たちの会「ちいさな風の会」に世話人として関わるようになった。この会が始まるきっかけとなった新聞連載記事を書いたことから始まっている。1988 年にスタートし、以来すべての集まりに出席しているので、平均すると年間 500 人位のご遺族のお話をきいてきたことになる。

集会のなかでは、話したいことがある人がいれば話し、亡くなった理由はもちろん名前も言いたくない人は、そのまま座っているだけでも、気まずい思いをしたり、だれかに話をささげられたり、うながされたりもしない。

客観的に見れば、その時に応じて、聴き手であったり、語り手であったりする。その場にいる人のほぼすべてが、自分の抱える苦しさゆえに、他の人のことが目に入らないということもあるかもしれないが、その人の持つ苦しみが自らとも重なり、時にうなずきとともに、ため息のような声がもれたり、涙が流されることがあっても、話が中断されることはないのだ。

親しい人、やさしい人からの慰めの言葉で傷つくことも少なくない。悪気ではなく、元気にさせたいという善意とわかるだけに、そのまま聞き流すしかなく、ひとり傷つくしかない。

「よく生きていられるね。私だったら耐えられないと思う」といった乱暴な言葉が投げかけられることもある。

まわりの人は、一年が区切りと思うのか、「もう一年たったのだ。すっかり忘れていた」と言われたり、無理に明るく振舞っていると「気丈だね」と言われたりする。暗い顔をしていると「頑張れ」とか「元気をだして、しっかりしなさい」と言われ、どういう顔をすればいいのかわからなくなり、外出を避けているという人も多い。

身内もはじめのころは気遣ってくれるが、実の姉から、3 か月ほどたった頃に、「いつまでもそんな顔をされていたら、こちらが気が滅入る」と言われて衝撃を受けた。愛するわが子を亡くしてまだ日も浅いの、たとえば肉親でも、他の人にはわかってもらえない悲しみなのだと、改めて感じたという。

「人からの慰めは傷つくし、理解されようとも思わない。何も言わずに、同情的な目で見られることもあるが、よけい悲しくなる」

など、体験の壁の大きさをしみじみと感じ、「自分だけの悲しみ」として、胸にかかえることになる。

この会のなかでの会員同士の関わりを見ていると、人は言葉ではなく、むしろ息遣いやまなざしによって、勇気づけられたり、慰められたりもするのではないのかと感じる。

他者からの慰めとは、そのようなところにあるのではないか、とも。

／生きることに目をとめて／

死を思っていたひとりの少女のことなのだが、死別とは異なるものの、理由のないいじめの標的とされ、苦しい毎日を送っていた。

転校したばかりの小学校。両親は、新しい土地での生活に慣れることに精一杯の様子だった。親に心配をかけたくない、いじめのことは自分だけの胸に納めていた。学校に行っても誰とも話せず、「死ね」と書いたメモが机に入っていたりした。はじめのころは、無視されることや、意地悪されることがつらく、自分が平然としていればやり過ごせると思っていた。しかし長引くうちに、人から受ける暴力的な言動に怒りがむくのではなく、級友から見えない自分、自分の存在に自信がなくなってしまった。「生きていてよいのだろうか」「生きる価値などないのでは」―「死にたいのではないが、生きている意味のない人間に思えてならなかった」そして、いつも死ぬことばかりを考えるようになっていた。

そんな日々、下校時間になり、重い足を引きずりながら、ゆっくりと家路に向かっていた時、見知らぬ人から「暗くなってきましたよ。おうちの人も心配するから気をつけて帰ってね」という言葉に、はっと我にかえった。翌日も偶然にその人に会うと、「おはよう」「朝は何をたべたのかしら。行ってらっしゃい」と言葉をかけてくれた。なにげないひと言だった。

その時、少女は、「自分は見えている」「生きていてよいのだ」という自らの存在が赦されるように思えた。

その少女は、その後音楽への道を進み、声楽家として与えられた才能を開花させている。彼女は当時を振り返り、「通りすがりの見知らぬ人のひとことで、私は救われたと思っています。幼い自分にとって、生きることに目をむけてくれた言葉でした」

声かけをした人は、何十年も昔、自分の声かけがひとりの少女のいのちを救ったなど、おもいもよらないことだと思ふし、きっと記憶にも残っていないのだろう。しかし、その人の何気ないひとことが、かけがいのない大切ないのちの芽を守ったのだ。

私たちの誰もが、様々な理由で「生きる力」を感じられなくなってしまうことがあるだろう。そんな時、専門家の助力ばかりでなく、傍らの人たちのさりげない関わりが、生きる力につながるきっかけとなることもあるように思える。

園田司法書士事務所

司法書士 園田 英昭
〒850-0853 長崎市浜町2番17号
五島ビル702号
TEL 095-832-4123 FAX 095-832-4124

相談電話開局30周年



医療法人

はやし小児科

林 克敏

〒851-0115 長崎市かき道1-33-12
TEL 095-830-2380 FAX 095-830-2381

林田司法書士事務所

代表 司法書士 林田 和樹
司法書士 石田 大幾
司法書士 坂本 玲子

〒857-0041 佐世保市木場田町8番6号
TEL 0956-22-0181 FAX 0956-22-0185

西山司法書士事務所

所長 西山 秀樹

〒857-0041 佐世保市木場田町2番4号
TEL 0956-25-3508 FAX 0956-24-5769

基礎工法

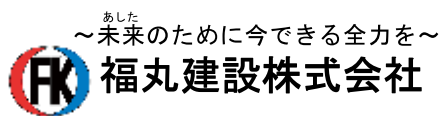
技術開発

太陽光発電



株式会社 西部工建

〒857-1172 長崎県佐世保市東浜町879番地4
TEL 0956-31-1812 FAX 0956-31-1817
http://www.seibu879.co.jp



代表取締役 増田 貴光

〒857-1164 長崎県佐世保市白岳町836番4
TEL 0956-32-0290
FAX 0956-32-0270
E-mail: fukumarukabeam.ocn.ne.jp
Homepage: http://www.fukumarukabe.com



車検整備 板金塗装 新車・中古車販売
自動車損害保険会社代理店
九州運輸局認証・自動車分解整備工場

有限会社 松尾オートサービス

代表取締役 松尾 義之
YOSHIYUKI MATSUO

〒851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1188-11
TEL (095) 883-4819 FAX 883-4821



株式会社 谷村建設

代表取締役 澤田 伸洋
NOBUHIRO SAWADA



本社 佐世保市竹辺町352-3
〒858-0911 TEL (0956) 48-7369
FAX (0956) 48-8418
MOB 090-8414-4616
E-mail: tanimura@aioros.ocn.ne.jp

光・日光タクシーグループ

代表取締役 四元 永生

〒852-8034 長崎市城栄町41-78
TEL 095-894-5504 FAX 095-894-5510



一般社団法人
戸塚刺しゅう協会

会長 戸塚 薫

〒662-0977 兵庫県西宮市神楽町6-5
TEL 0798-36-2400 FAX 0798-36-0603



一般社団法人
戸塚刺しゅう協会

師範総代 藤本 小枝子

〒852-8107 長崎市浜口町2-6-904
TEL・FAX 095-845-1914

**なかむら
総合法律事務所**

弁護士 中村 尚志

〒850-0033 長崎市万才町5番22号
TEL 095-822-6266 FAX 095-822-0211



社会福祉法人
ウイキャン・サポート

理事長 松村 正信

〒850-0991 長崎市末石町162番地
TEL 095-898-5656 FAX 095-898-5650

合同会社 抛り所

重村 明宏

〒852-8124 長崎市辻町15-20
TEL 095-807-7752

**医療法人 友愛会
田川療養所**

理事長 田川 雅浩

〒852-8045 長崎市錦2丁目1番1号
TEL 095-845-2188 FAX 095-844-0966

(株)ドミニコ えむかえサクラ

代表取締役・管理者
サービス管理責任者
児童発達支援管理責任者

末永 さち子
Sachiko Suenaga

〒859-6101 長崎県佐世保市江迎町長坂168-25
TEL 0956-65-2530 携帯 090-5020-4313
E-mail: dominico2020@dor.bbq.jp



長崎県知事(般一)第6575号

営業種目

新築・増築・店 舗

左官工事・墓地・土木工事

その他一式

代表取締役 橋口 光壽 (二級建築士)
Hashiguchi Mitsuhsa

〒851-3101 長崎市西海町1792-2
TEL&FAX 095-884-3567
自宅 TEL 095-884-0538
ケイタイ 090-3738-9422

株式会社 なるみライフサービス 取締役 服部良成この街には
わたしたちがいます!

大村店

〒856-0027 長崎県大村市植松3丁目857-2
TEL 0957-54-7568



〒856-0837 長崎県大村市西本町581-2
TEL 0957-54-6330



総合ビルメンテナンス
(株)ワークス

〒852-8002 長崎市弁天町2-19
TEL 095-861-9516
FAX 095-861-9518

評議員さんからの『ひと言』ページ

社会福祉法人長崎いのちの電話には、9名の評議員さんがおられます。それぞれのお立場から苦言・提言を含め『ひと言』を頂戴しました。



長崎古町教会

牧師 浅場 知毅

開局30周年記念の寄稿文として相応しいものではないかもしれませんが、長崎いのちの電話の活動が30年間続けられていることに、祝意と共に悲しみを覚えます。それは、それだけ生きることの困窮し、死を選ぼうとする人が後を絶たないということだからです。組織としての発展は喜ぶべきことなのかもしれませんが、電話相談を必要とする方々がおられることを考えると複雑な思いになります。お叱りを受けることを覚悟で申し上げれば、生きることの困窮し、死を選ぼうとする人が一人もいなくなって、喜びの内に長崎いのちの電話が閉局する将来が来ますようにと願っております。

しかしながら現実として、長崎いのちの電話の存在と働きは、県内においてさらに重要度が増しています。厚生労働省が発表している自殺総合対策大綱には、生きることの阻害要因として「過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立等」が挙げられています。つまり自殺は個人の突発的な感情によるばかりでなく、社会的な要因によって「追い込まれた末の死」である場合が多いということです。県内の人口や経済が縮小し、社会的な不安が広がる現在、長崎いのちの電話はさらに必要とされるでしょう。

長崎いのちの電話は命を守る最前線です。長崎いのちの電話のおかげで助けられ、救われている方々がいます。この尊い働きがなされていることに感謝いたします。



川端辰長司法書士事務所

所長 川端 辰長

私は、司法書士です。「司法書士の職責は、常に品位を保持し業務に関する法令及び実務に精通して、公正かつ誠実にその業務を行わなければならない」と定めています。それによって、国民の権利保護に寄与することを目的としているからです。

ところで、私たちの職務の一つに相談業務がございます。法律的な悩みや相談は、どうにかして解決することが可能ですが、法律では解決できない悩みや相談事がたくさんあります。相談者の話を聴いているうちに、真の

問題はほかにあることがわかってきます。しかし、深いところにある真の問題を聴くことはとても難しいことです。職業柄、法律的な解決の事ばかりですが、相談者の真の問題を見逃してしまい、失敗したこともあります。現在社会は多様化し、考え方も様々です。また、心の病を抱えている方もいらっしゃるから、それらの知識がなければ、相談に応えることもできませんので、とても難しい時代です。

そして、相談者の解決できなかった悩みや相談をどこかに紹介し引き継げることができなければ、相談者はそれを解決することもできずにいることになります。そのためには、他の機関と協働することがとても大切なことだと思います。いのちの電話の世の中に明りを灯す活動に、大勢の人が癒され、そして平穏な日常に戻れていることと思います。

いのちの電話のスタッフの皆様のご健勝ご活躍をお祈りいたします。

.....



國弘達夫法律事務所

所長 國弘 達夫

長崎いのちの電話の評議員には、田村事務局長のお誘いもあって就任しましたが、実は、30年前の「長崎いのちの電話開局式」に長崎県弁護士会を代表して(当時、副会長でした)参列し、全員での記念撮影にも写っています。開局当時の相談電話番号が「0958-42-4343」と、市外局番が4桁になっているのも懐かしいことです。

さて、開局当時は任意団体でしたが、2002(平成14)年11月6日に社会福祉法人として県の認可を受けておられます。

認可当時の基本財産額(定期預金)は2600万円だったとのこと。これだけの浄財を広く募るには大変なご苦労があったであろうと、柴田芳男会長(法人化後に理事長就任)や今は亡き三原茂事務局長を筆頭とする関係皆様方のご尽力・ご奔走には今更ながら改めて頭の下がる思いであります。

さて、この「基本財産」ですが、その処分(定期預金の取り崩しなど)に当たっては県の認可が必要です。また、将来的に法人が解散となった場合、もともとの寄付者に返還するとか関係者間で配分することは法律上も認められていません。

この仕組みは社会福祉法人の健全な運営上、重要なものではあります。皆さんにとっては「宝の持ち腐れ」状態に映るのではないのでしょうか。

「次の30年」に向けて、この活動を安定的に継続するための基盤となる費用等への投下など、基本財産の有効活用検討も視野に入れて頂ければと思います。



元長崎県議会議員

下条 文摩左

私は、長崎市議会議員・5期、長崎県議会議員・3期と人生の大半を議会人として歩んできました。様々な地域社会活動にも参加してきております。

この間、実に多種多様な「ご自身が生きていく上で障害となる課題」を抱える方のお手伝いをさせてもらいました。こうしたお手伝いの中では、まずは「今、一番お困りのことは何か、その解決・解消のためにはどのような対策が有効か……」と周りの皆さんと一緒に考えます。いかに早く必要な社会的資源につなげることが出来るかが問われていたと思います。

私は、こうしたことが習い性になって現在に至っていますので、「いのちの電話の相談活動」とは、その趣が随分と違うものだな……と、お話を伺うたびに思います。

「自分の経験や知見・知識はいったん横に置いて、まずは相談者の『辛い』『苦しい』『寂しい』などの声をありのまま受け取るように耳を傾ける」……。私のような「まず解決策を考える」者にはとても難しいのですが、この傾聴・受容・共感の姿勢こそが電話相談員さんの基本と伺い、とても勉強になりました。

さて、ひとつ提案があります。「相談」と言うと、どうしても解決策を探るというような結びつきになると思います。長崎で30年、長いところでは50年以上に渡って慣れ親しんだ呼び方ではあるのですが、「電話相談員」ではない何か別の、活動にふさわしい呼び方があるのではないのでしょうか。30周年を機にご検討下さい。



税理士法人波多野アンドパートナーズ会計事務所

代表社員 波多野 徹

ほとんどの社会福祉法人は、建物等の福祉施設を有し、その施設利用で得る収入や補助金等により運営を維持しています。その意味では長崎いのちの電話は特殊な運営形態の社会福祉法人で、自前の収入源を持ちません。個人・法人を問わず各方面からの寄付金や賛助金が頼りで、加えて県の補助金などが運営経費に充てられ

ています。

こうした運営活動が可能なのも、電話相談員さんらが無償のボランティア活動に徹しておられるからで、このことには心より敬意を表するものです。

しかし、守秘義務や匿名性の観点から相談員さんたちが資金確保に動くことには、無理がありましょう。

そうすると運営資金集めは、もっぱら外部との接点を持つ理事さんたちのお役目ということになります。それぞれが他のお役もあり大変ではと思いますが、財務面がしっかりしていて初めて自立的な活動が出来る訳ですから、どうぞ宜しくお願いをいたします。

資金集めには、様々な方法・手段がありますが、やはり基本は、一人ひとり、この活動の意義を理解して下さる方を増やし、支援の輪を大きくして行くことでしょう。この点では及ばずながら評議員の一員としてお手伝いをさせて頂く積りでおります。

そこで、思うことですが、『応援団』（或いは「後援会」など名称は色々かと思いますが）を組織化したら如何でしょうか？こうした課題に絞って役員・評議員がまず集まる。その中で様々なご意見が出ようかと思いますが、どうぞご検討下さい。

原口カウンセリングルーム

所長 原口 芳博

いのちの電話のスーパービジョンに関わってきて、次のような過程を私は感じています。それはコーラー（相手）が「何を話しているか」よりも「どんな気持ちで話しているか」に関心を向けることです。そうしながら相手の気持ちに寄り添っていき『辛かったですね』『それでも、よく掛けてきてくださいましたね』と真心の籠った言葉で受け容れます。同時に「掛けてきた訴えの背景には何があり、何を望み、どういう気持ちになると安心するのか」と相手の訴えの核心に、心を鎮めて傾聴していきます。傾聴していくと相手に提案したり経験を分かち合いたいという自分の思いが出てきますが、それは言葉にしません。なぜなら、いのちの電話相談は「心のサポート」をするのであって「悩みに解決を与えるサポート」はしないというのが一自死を訴える相手に危機介入を行う以外は—私が理解しているいのちの電話相談だからです。つまり「コーラー中心」の相談だと理解しているからです。

そのためには自分の「無力」を認め、相手には回復する力があると信じて、相手の話し方に込められた気持ち（打ちひしがれた、怒りに満ちた、悲しみに満ちたなど）に共感し、今の相手に相応しい真心の籠った言葉で応答して相手に繋がっていく。この繋がりが体験（出会い）を通して相手が安心し、相手が持っている力が呼び覚まされ、相手自身の努力でその望みが叶えられていく。このようなサポートをするのが、いのちの電話相談ではないのでしょうか。



NPO 法人 DV 防止ながさき

平山 由美子

「いのちの電話」は電話相談活動として長い歴史を持ち、自殺防止の観点から年々その重要性は増している。

同電話と内容は違うが、私も警察の「ヤングテレホン」(1986～2012年)に長いこと携わり非行等問題と向き合ってきた。退職した現在も NPO の電話相談に携わっている。しかし、相談者の声を本当に「聴く」ことができたと感じることはあまりない。聴けたつもりの自分がいることに気づかされ「聴く」作業の難しさに直面する。ただ私が相談者の話を「聴く」うえで大切にしているのは相手を尊重するということである。

電話相談の中には様々な内容がある。真剣な相談もあれば、こちら(相談員)を試したりする内容もある。「解決」を求めているだけとも限らない。そこには顔を見ずして気軽に相談できるメリットがある一方、電話相談特有の難しさ(架け手優位)があり、相談員を何年経験しても、受理から終結までの対応が容易でないことを実感する。

特に「いのち」が見え隠れする内容は難しい。故に相談員は多くの葛藤を抱えながら電話対応をしている。それでも相手を尊重しながら話を聴いていくと「思い切って相談して良かった」と肯定的に受け止められることがある。相談員が「力」をもらう瞬間だ。相談者と相談員は相互関係だ。生きづらい世の中だからこそ、そんな関係性を大切にしていきたいと願う。

電話の前に座り続けて約40年。今日も電話の向こうにいる方の声を待っている。



公益社団法人犯罪被害者支援センター

理事長 前田 和明

「危機」ということ 長崎いのちの電話に関わらせて頂いた、平成を振り返りますと、「危機」への意識が社会に広がった時代だったと思います。「危機」とは、自分と相手や生活との関係性に起因する「心の不健康」を言います。病気ではないのでクスリを飲めば治るというものでもありません。「危機」に陥ると、感情を自分だけでは抑えきれない感情に悩まされます。感情を「行動」にするか、「ことば」にするのかで、その後の転帰は大きく変わります。

我が国での自殺者が、毎年2万人を超え続けている状

況です。死にたい「感情」を「ことば」にして、誰かに相談することで、自殺を思い止まることもできるでしょう。平成の世相では、「ストレスと働き方改革」「天災や特異な犯罪の多発」「少子高齢化」など、社会のどこにかかわいそうな人たちがいるのではなく、日々の生活の中で、自分がいつ「危機」に陥るかも知れない、との思いを感じる場面ばかりでした。

令和のコロナ禍とスマホ全盛で、良くも悪くも個別化や分断化が進んでいます。技術の発展は、人の「つながり」を促進する利点ではなかったのです。ネット上の「ことば」の暴走による自殺も相次いでいるようです。こんな時代だからこそ、長崎いのちの電話での、相談員との「ことば」の支援が大切なのだ、と思いを新たにさせられます。

分室開設で一層の支援充実を期待するとともに、相談員の「危機」回避を祈ります。

.....



学校法人活水学院

理事長 湯口 隆司

「いのちの電話」は『命』と書かずに『いのち』とひらがなで書きます。漢字で書いてしまうと身体的な生命になってしまう、でもひらがなはひとの精神的な面、いのちの尊さが伝わる文字です。ひらがなで書くと、とても人間的なあったかみがあると思います。

英語のいのちの電話はLifelineですが、命(ライフ)だけでなく線・つながり(ライン)です。身体的な生命は死の三要件のように生物的動きで定義されますが、人間の尊さ、尊厳は個人の身体性だけでなく人とのつながり(ライン)の中で初めて人間らしい生き方ができる、そのような発想を命名に感じます。

「いのちの電話」が開設された当時は電話しかなかったのですが、でも「いのち」を結ぶ「きずな」という意図があったのだと思います。電話だけだと技術的響きですが、いのちの電話と続けるとラインからきずなを感じさせる温かみのある日本語になるということなのではないでしょうか。

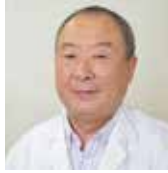
「いのちの電話」はその意味でとても深い意味を含む表現だと思ってきました。

相談ボランティアの皆さんは、この細い一本線で、一期一会とはいえ、とても太く深いきずなを結ぼうと、まさに1年365日休まずに活動を続けておられる。そのことに深甚なる敬意を表したいと思います。

そして、相談員のきずなも次々とバトンタッチしながらたゆまず続けることに大いなる意味がありましょう。この先、「次の30年」と言わず、長くこの活動が続くことを願っています。

春・秋 公開講演会 10年分のラインナップ

春の公開講演会は2015(平成27)年にスタートしました。
2020年分以降は、ホームページで動画視聴が出来ます。

春の公開講演会(厚生労働省自殺防止対策事業)		開催年	秋の公開講演会(開局・周年記念事業)	
	ストレス社会をどう生きるか 田川療養所診療部審理室長 前田 和明	2015 平成27		誰でもわかる認知行動療法 ～ここを軽くするヒント～ 一般社団法人 認知行動療法研究開発センター理事長 大野 裕
	身近な関係に起きる暴力～相談・支援・ 防止啓発活動を通じて見えること～ NPO法人DV防止ながさき代表 中田 慶子	2016 平成28		癒しのユーモア ～いのちの輝きを支えるケア～ 淀川キリスト教病院理事長 柏木 哲夫
	私の臨床経験といのちの電話での経 験を振り返って 活水女子大学特別専任教授 長尾 博	2017 平成29		「万葉集」歌えば命の泉わく 奈良大学文学部教授 上野 誠
	いのちに寄り添う ～くちごもるだれかのとなりで～ NPO法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジ 理事長／まちなか相談室「風の舎」代表 内村 公義	2018 平成30		ネット依存の現状と課題～深刻化する 若者への影響と急がれる社会的取組～ 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 院長 樋口 進
	児童虐待防止と地域でできること 長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター 所長 柿田 多佳子	2019 令和元		中高年のひきこもり ～80・50問題の実態と背景～ 愛知教育大学大学院 教育実践研究科准教授 川北 稔 (基調講演者)
	性暴力被害者に関わって 見えて来たもの 元「サポートながさき」支援担当員 平山 由美子	2020 令和2		繰り返される偏見と社会的烙印(スティグ マ)～「コロナ禍」の中で見えてくる課題～ 長崎いのちの電話理事長 中根 允文
	生き辛さを抱える女性達 長崎県助産師会 中村 まり子 (基調講演者)	2021 令和3		コロナの時代を我々はどう生きるか 長崎大学熱帯医学研究所教授 山本 太郎
	With コロナの時代に向かって改めて問わ れる「聴くこと、寄り添うこと」の意義と意味 北九州いのちの電話 副理事長・研修委員長 富安 兆子	2022 令和4		釜ヶ崎で共に生きて見えた真実～今こそ 人が人として幸せに生きられる社会を～ カトリック司祭 本田 哲郎
	いのちのメッセージ ～死別の悲しみを超えて～ ちいさな風の会代表世話人 若林 一美	2023 令和5		子育てで一番大切なこと ～こころの健康を支える～ 福井大学 子どもの心の発達研究センター客員教授 杉山 登志郎
	僕は発達凸凹、 でも前向きに生きていく 「僕は発達凸凹の大学生」著者 山田 隆一	2024 令和6		大人も子どもも「助けて!」が言えな い～この社会を変えるヒントを探る 精神科医 国立精神・神経医療研究センター 薬物依存研究部部長 松本 俊彦

※講演者の肩書きは講演当時のものです。いずれも敬称略。

相談員さんの『声』

1 期から 31 期 509 名が相談員に認定されています。
各世代の『声』をお届けします。

1992 (平成 4) 年 6 月	『開設呼び掛け人会』開催
1993 (平成 4) 年 9 月	「長崎いのちの電話」名称使用許可
1993 (平成 4) 年 11 月	設立発起人総会開催
1994 (平成 6) 年 11 月	長崎いのちの電話開局 (11月5日)



1期生 Y. M

コロナ禍以後、相談員が急速に減少しています。しかも全国的に。1～3期の現役相談員は、1期生3名（うち1名休務）のみ。2期生・3期生

全員引退。

電話相談を受ける私たちには、変わらぬ基本姿勢があります。「相談者の話を、先ずそのままに受容する」ことです。相談者を目の前にいるように思い描くことができたケースでは、会話もスムーズに進み、内容を深めることもできたでしょう。イマジネーション（想像力、構想力、創作力）を豊かに育てることは、私たちの電話相談を生き活きとしたものにしてくれます。

30年前の合宿研修で、リーダーの R.O. さんから、「電話の前に座ったら、その時間は神様にささげた時間として、全力を注ぐこと、終わったらサラッと忘れてしまうこと」という鮮烈な言葉をいただきました。この言葉は、今も私に有効に働いています。

私たちは、電話がつながっている間だけの一期一会に全力を注いで参りましょう。私たちは、長崎の・全国の・世界の相談員たちと共に働いています。一人ではありません、仲間を信頼して、前進していきましょう。心と体を鍛えて、一日も長く、電話の前にお座りください。

1995 (平成 7) 年 4 月	日本いのちの電話連盟に加盟
1995 (平成 7) 年 7 月	スーパービジョン (継続研修) 開始
1996 (平成 8)	長崎法人会の支援スタート



5期生 S. T

特に生き方を決めている訳ではありませんが、素直に実直で嘘のない自分でありたい。無礼なひとだけにはなりたくない、と思いながら生きています。人のご縁とは不思議なもので、互いの心の在り方で出会いがあり、別れがあります。何も誇れるものはありませんが、自分らしく素直に生きて行ければと思っています。

私がなぜ相談員として学ぶことを始めたか、職場での

人との出会いからです。沢山の人が出入りし、言葉も交わすこともなく、顔だけは知り合いです。毎日の業務の中で笑顔で挨拶したり、叱り散らされたり、様々な人々との関り合いがありました。病気が治った、一つの薬が減っていると喜んで窓口にかけよってくる患者さん。こちら嬉しくなり共に喜んでる私でした。そんな仕事での毎日の日々でした。心ある人であれば、誰でも優しくなれると思いながら。自分の知らない人生、世の流れも沢山あるし、知らない運命との出会いもあることを知りました。

魔法の言葉「ありがとう」が大好きで電話をかけてくれたコーラに最後に挨拶で使います。人生を教えてくれる出会いの人々に使います。これは感謝の気持ちを持って生きてゆくうえで欠かせない言葉です。大切なのは何をどのように感謝するかで、誰かに無理やり言わされるのではなく、自分が自ら感じとり、言葉にすることです。「難有」の文字があります。が、「ありがとう」の漢字「有り難う」は逆にすると「難有り」となります。困難は自分を成長させてくれると言う感謝の気持ちで、立ち向かっていくべしという教えです。

人の心の中を理解したりすることは「難有り」です。相談者の心が壁にぶつかりながら生きて、乗り越えられたらと願います。少しでもそんな人たちの生きる希望にお手伝いできれば、幸せな笑顔を、“今、有るかぎり”つづけたい！

2000 (平成 12) 年 5 月	初代川崎ナヲミ会長逝去 柴田芳男会長2代目会長に
2001 (平成 13) 年 12 月	連盟主催フリーダイヤル開始
2002 (平成 14) 年 11 月	社会福祉法人として認可



9期生 I. N

月に数時間ほぼ生活の一部となった相談員ですが、ここでの時間は素の自分に戻り整えられるような感覚があります。ここを利用する人々も自分もそう変わらず他者も自分も弱くて強い存在であること、家族の中にも、集団の中にも孤独はあること。だからこそ他者との繋がりを求めること。あなたはひとりぼっちではないと言うよりも、私もひとりぼっちですと言うことが時によっては相手に響く共感ともいえるかもしれません。

また、話し相手として、気分転換としての利用も増えているように思えますが、ただ道を尋ねたくてかけているのだろーと考えるようになりました。自分自身も見知らぬ人に道を聞いたりすることが度々ありますが、殆ど

の方が普通に爽やかに教えてくれ、そんなちょっとした親切が清々しく嬉しくなることがあります。道を尋ねられたと思って普通に受け入れることでかけてくる方も安心を得たいのかとも思えないと感じています。昔から遠い親戚よりも近くの他人と言われるように、私たちは近くの他人であり、見知らぬ隣人であり、話すこと、共に悩み心寄せることでお互いに助けあっているのかもしれない。

最近、相談員になられた方も迷い傷つき、思っていたより大変だと思ふこともあるかと思ひます。続けていく理由は人それぞれで辞めていく方々を引き留める言葉も見つけられませんが、共にライフワークの一つとして続けていってみませんか。心豊かに思える瞬間もきっとあるはずです。

2003 (平成15) 年11月	設立 10 周年記念公開講演会
2004 (平成16) 年11月	開局 10 周年記念公開講演会 (～以後 毎年開催に)



12期生 M. K

大事な人を亡くし、しばらく誰とも顔を合わせることが苦しい時がありました。うつ状態だったのでしょうか。「いのちの電話の相談員になりませんか」と誘いを受けた時、そんな経験が少しでもお役に立てることができるかなと思って養成講座を受け、今に到ります。

当番の日、今日はどんな方と出会えるのか緊張します。声だけでつながっているのにとっても近く感じます。お返しの言葉に困ることもあるけれど、この関係を大事にしなければと覚悟します。

しばらく「あなた」の声に耳を傾けても良い解決策が出てくることは少ないです。「つらかったね」「よく頑張ってきたね」今の「あなた」を受け止めることで精一杯。最終的には「あなた」が自分の力で先に進んでいかなければならないのです。私はそれを肯定し、応援していきます。

時々「あなた」から感謝の言葉を聞かせていただくこともあります。いっときはうれしくなりますが、しばらくするとそれに浸ってはいけなさと反省します。私の方こそ貴重な話を聴かせていただき、ひと時を共にできたことに安堵します。

今では自分自身が日常生活の中でひとの話を少しは聴けるようになったのではないかなと思う時があります。歳を重ね色々な経験を経て来たこともあるでしょうが、このボランティアに携わらせていただいたことが大きいと感じています。私から解決策を示すのではなく、「あなた」の気持ちを受け止め、今の「あなた」を認める。

亡き兄が私の話へ余計なことは言わずに「そうか、そうか」と相づちだけで応えてくれて心地よかったように。たくさんの「あなた」に育てていただいたのでしょうか。

2008 (平成20) 年11月	新理事長に長尾博氏就任 15 期生 10 名を認定
------------------	------------------------------



16期生 S. F

「あの一、話を聞いてもらってもいいですか？」と、消え入りそうな声で始まった、ある日の電話。電話の主は、生まれてから昨日までのことを、ポツリポツリと話し始める。途中、涙声になり言葉が途切れることも。言葉に詰まったり黙り込んだり、堰を切って溢れる水のように話すことも。

私は“あいづち”を打ちながら、“聴く”だけ。時間が過ぎ去り、沈黙になった時、初めて言葉を発した、「聴くだけしか出来ないけど、いつでもかけてみませんか？」と。

電話の主は、「はい、聴いてくれて有難うございます。なんかスッキリしました」と、大きな声で応えてくれた。消え入りそうな声が、元気な声に変わったようには思えるが、電話の主の本心なのだろうか、と私は考えてしまう。最初の声のトーンとは違ってはいても、安堵するだけではなく毎回毎回反省することばかりである。

ホッとして終わる電話ばかりではないこともある。

長崎いのちの電話を、子ども相手の相談電話だと思い、申し込み、精神・法律・心理など専門的なことの講義を受けた。専業主婦(時々パート)で子育てだけだった私は、知らないことばかりの講義内容に戸惑うことが多かった。講座終了後、自宅学習と専門書を読み、県や市、大学などが開催する勉強会にも参加した。認定後も毎年養成講座を聴講して、原点に戻り振り返る日々である。

どんな対応をしたらいいのか、こんな対応で良かったのか・・・の迷い・悩みが、尽きることはない。

今、私の頭の中には、『アドバイスをしなくて、聴けるかどうか～』、先日受講した講座の講師の先生の言葉が、ぐるぐる回っている。

2011 (平成23) 年 2 月	「東日本震災フリーダイヤル」開始
同年11月	開局 17 周年記念講演会 ～震災被災者における心のケア～
2012 (平成24) 年11月	新理事長に中根允文氏就任



17期生 M. O

20年以上前の話ですが、一時期はとても親しくしていた年上の友人と、私の転職や彼女の引っ越しで何となく疎遠になっていて「来年はまたランチでもしようね」というクリスマスカードをもらいました。その3ヶ月後に、別の友人から彼女が自殺したと

いう知らせがあり、ショックを受けました。働きながら大学と大学院で心理学を学び、働く女性のためのカウンセリングやワークショップを開いていた強く誠実な人でした。

年末にひいた風邪を拗らせて肺炎を起こし、ICUで使われた強い薬のために歩けなくなり、退院してリハビリするも予後不良で仕事にも戻れず、ウツになっていたのです。もちろん私も含めて彼女の友人やワークショップの仲間は、あまりにも突然の暗転に驚き、悲しみ、自分が何か出来なかったものかと苦しみました。

私が自殺について最初に真剣に考えるきっかけになりました。それから数年後、両親の介護で長崎市に帰って来た私は、いのちの電話の相談員募集に応募し、今に至っています。

人の悩みは様々で、世の中には私の理解できない世界があるものだと思います。悩んでいる人の話を聴くことで少しでも役に立てれば、と勇気を振り絞って始めたボランティアですが、否応なしに考えさせられ、学ぶことも多く、自分なりに成長し、気がつけば救われているのは他ならぬ私です。同じ思いの素敵な仲間達とも出会い、私の後半の人生は思いのほか豊かなものになった気がします。

2012 (平成24) 年 11 月

開局20周年記念講演会・感謝の集い開催
19期生・13名認定

19期生 S. A

私が相談員養成講座のお知らせを目にしたのは、2011年のあの3.11の大震災の後でした。テレビに映し出される惨状に涙する日が続いていました。そのような中たまたま自身の学びなおしで得た知識がいのちの電話でいかされるのではと、申し込むことにしたのです。

初めに市民公開講座の中で学び、その後より専門的な対人関係のなかでのコミュニケーションの取り方など学ぶことができました。最後は宿泊研修ですが、スタートが一緒に学んできた同期の皆さんとも心が繋がり有意義な養成講座の期間を過ごせました。その後先輩方の指導を受けながらの実習へとつながり少しずつ相談員として成長していくことが出来ました。

スタート時は還暦目前、自身の生きてきた経験から世の中の機微は多少理解しているつもりでした。しかし電話室で取る電話の向こうには喘ぎ苦しむ方々の声があります。生きづらさ、悲しみ、苦しみを抱える声に少しでも寄り添ってお話を聴かなくてはと共に涙する時もあります。

今古希を過ぎこの10年少々で社会の闇を少しだけ垣間見たような気がします。養成講座の期間、そして相談

員として仲間と共に学ぶ場で用いられる「自殺予防いのちの電話」という日本いのちの電話連盟編のテキストがあります。私はこの中の一節「一人ひとりの身近な人に目を注ぎ、何かあれば喜んで耳を傾け、時には手を差し伸べることができる【対話能力のある市民】こそが、電話でもよい相談員になれる。」という言葉に常に心に刻まなくてはと思っています。相談員として一人の人としてこれからも歩んで行きます。

2015 (平成27) 年

春の公開講演会開催 (以後、定例化)



25期生 H. H

2017年に相談ボランティア養成講座を受講し、その後相談員としてのキャリアをスタートしました。以来約7年にわたって長崎いのちの電話に関わっています。

電話に関わっています。

私が相談員を目指した当時の世相では、平成天皇のご退位が決まったことが印象的です。また、九州北部豪雨が発生し、多くの人命が失われるなど社会を揺るがす災害となりました。海外ではアメリカ合衆国大統領にトランプ氏が就任し、世界情勢にも大きな影響を与えています。相談員を目指した動機は「悩み苦しんでいる人のお役に立ちたい」というよりも、自分には何ができるか、私なりの自己実現を図りたいという気持ちの方が強かったかもしれません。不確かな時代の流れの中にあっても「自分は流されずに正しいことを行っている」という立ち位置が必要だったのでしょか。

その後の世界の動きでいえば、新型コロナウイルスの大流行やロシアによるウクライナ侵攻など、まさに全世界を不安に陥れるような出来事が押し寄せてきました。今も一寸先も見えないカオスに包まれた世の中で押しつぶされそうな日常は否応なく続いています。

かつて3万人を超えていた我が国の自殺者のピークからは毎年その数は減少しているというデータは紛れもない事実ですが、世の中を覆う得体の知れない「不確かな空気」は今の日常の中でますます増幅されているように感じてなりません。私はこれからも、今この時の「日常」を感じながら、相談者の声に耳を傾けていきたいと思っています。



2017 (平成29) 年

社会福祉法人法改正
評議員会が最高意思決定機関となる

2019 (平成31) 年 11 月

開局 25 周年記念公開講演会



26期生 M.T

あなたは「長崎いのちの電話相談ボランティア募集」用紙を目にしたことはありますか？私は気になる講座の受講をしようかな？と、毎年考えて見るだけでした。

ある夏の週末の夕暮れ時、親友が自死したと連絡がありました。まだ30代前半！互いに毎週末には連絡を取り合い、月に一度は呑みに行く仲だったので衝撃でした。

「何であいつが？」葬儀後、親友の両親から代わりに愛車に乗ってもらえないかと頼まれた。車内を見ると趣味で集めていた物や奥さんと子供の写真が沢山ある。そしてその中に隠すように書類と名刺が・・・「これが理由か!!」全てが分かった。これまでの会話の中で聞かれ話をしてきた。何故お前がその様な話を聞いてくるのか解らなかったが、まあ興味本位だろうと思い互いに話し合った。だが、これがお前が選んだ答えなんだと。

親友はこれまで一人で悩み苦しみがいた。私はその会話、言葉の意味や内容の奥深さに気づけなかった。気づいてやれなかった。他人から見れば学歴・経歴共に人に羨ましがられるが、友人、家族にも相談できずに孤独でいた。私は支えになってやる事も出来なかった。

彼との事もあり、現在は一歩前に出て相談ボランティアとして電話で話を聴いている。心の底からの想いを傾聴し共感する。会話が噛み合わない時もあるが想いは届いていると感じる。

別れ際に「電話に出てくれてありがとう」の一言で。

こうには顔も年齢も、たまには性別さえ迷うような人たちがいました。顔が見えないからこそ外出着を脱ぎ捨てて裸のままで話すことができる、悩みを抱えた人たちです。

電話相談は電話を通して感じる雰囲気と聞こえてくる言葉だけをたよりに相手を理解し言葉を選びながら返答します。これはボケかけた頭をフル回転する必要がありました。また、相談員は電話の内容を外部に漏らさないよう守秘義務の徹底を求められることから、内部の相談員どうしは、ある面で同志的な繋がりができました。

色々な人が居り、色々な考え方を知り、相手に寄り添いながら自分もまた寄り添われていることを知ります。相手を思いやりながら電話で話すことができれば、定年もなく社会との繋がりは途絶えることはありません。ありがたいことです。



30期生 R.K

「なんとなく寂しいのです。」「わかります。寂しい気持ちは誰にでも訪れるものですね。人間関係や日常の変化によって、時々感じることもあります。でも、大丈夫ですよ。一人で感じているときでも、あなたは一人じゃないんです。ここに私がいますから、お話しませんか？」

さて、これは誰が答えているのでしょうか？そう、AI (Copilot) です。試しに聞いてみましたが、なかなか凄い回答力だなと思いました。生身ではないので、何度でも同じことを聞いたりしても嫌がったりしません。いのちの電話もAI担当と生身担当とが併存する時代が来るかもしれません。

とはいえ、やはり、電話のこちらと向こうに生身の誰かがいるという関係がいのちの電話の意味なのだろうとは思います。私は30期生ですので、まだ認定されてから1年弱のひよっこです。電話をとるときにはドキドキします。声とかすかに聞こえる音だけをたよとして、電話線の向こうにいる方の姿を想像して声を送ってみます。ときには呆れられたり、怒られたり、ガチャンと中断されることもあります。そう、いたらない点が多々あるのです。AIは完璧すぎてかつ迅速なところが、逆に相談という点では弱点なのかもしれません。

電話をかけられた方の苦しみや寂しさと、電話を受けた私の戸惑いや無力感やいたらなさなどが行きつ戻りつ折り重なり、ポロポロ落ちながら続くキャッチボールの中で、ああ、どこのだれかはわからないけれど、ヒトとヒトとが共にいるという感覚になることができる気がします。

2020 (令和2) 年	コロナ禍 世界を揺るがす「毎日FD」開始
2021 (令和3) 年 6 月	古賀義理事長就任



29期生 Y.Y

令和3年は、「ダイヤモンド・プリンセス号」の新型コロナウイルス感染者発生から始まり、緊急事態宣言が出されて、市中のマスクが店頭から消え、延期された東京オリンピックが開催された年でした。3密を避ける生活様式が日常になり社会が変わり始めた時に定年を迎え、「あなたはもう若くない。もうお呼びではありませんよ。」と告げられているような気がして落ち込んだ中で新しい生き方を模索していました。そんな時に「いのちの電話」の活動をパンフレットで知ったのです。

これまでと違った社会との新しい繋がり方を求めて参加した電話相談は驚きと発見の連続でした。電話の向

2024 (令和6) 年 6 月	「佐世保分室」開設
2024 (令和6) 年10月	31期生・11名認定 (累計509名)

園田司法書士事務所

司法書士 園田 英昭

〒850-0853 長崎市浜町2番17号
五島ビル702号

TEL 095-832-4123 FAX 095-832-4124

相談電話開局30周年



順不同

前田司法書士事務所

司法書士 前田 洋之

〒856-0831 大村市東本町24番地15
TEL 0957-52-2897・0957-52-2767
FAX 0957-52-2644当事者と専門家による依存症回復支援
特定非営利活動法人ジャパンマック
依存症リハビリセンター**ジャパンマック長崎**〒850-0905 長崎市籠町9番22号
PSI籠町ビル2F
TEL 095-807-6072 FAX 095-807-5145

株式会社

光葉産業運輸

代表取締役 筒井 琢磨

〒859-3166 佐世保市木原町148番地2
TEL 0956-26-3300 FAX 0956-26-3200

税理士法人

波多野アンドパートナーズ会計事務所

代表社員 波多野 徹

〒850-0033 長崎市万才町6番35号
大樹生命長崎ビル2F
TEL 095-824-5511 FAX 095-824-4227

司法書士

川端辰長〒854-0014 諫早市東小路町4-24 TKビル2階
TEL 0957-23-6647 FAX 0957-21-2002**おひさまこどもクリニック**

小児科専門医 医学博士

尹 忠秀
YUN Chyuns〒851-2127 長与町高田郷923-1
TEL 095-800-2187
FAX 095-800-2188
URL: www.ohisama-kids.jpe-mail: c-yun@kids-clinic.jp
http://www.facebook.com/chyunsyun

長崎県北の食遊にこだわる

月刊ならでわ!

毎月1日 60,000部 無料発行

(有)エスケイ・アイ・コーポレーション

〒857-0822 長崎県佐世保市山祇町19-13
TEL: 0956-31-5656 FAX: 0956-31-3407
E-mail: info@sk-i.net**まるみつ整骨院**
MARUMITSU SEIKOTSUIN

各種保険適用・交通事故治療対応

〒850-0031 長崎市桜町3-17-101
095-820-3020このような症状で
お悩みではありませんか?
★首や肩にかけて痛みがある
★歩行時の膝の痛み
★突然の寝違えやぎっくり腰
★交通事故後のおち打ち

一般財団法人

なめしスイミングセンター

理事長 北村 公児

〒850-0035 長崎市横尾5丁目11番32号
電話 095-856-2111

土地を分けるとき、合わせるとき

建物を新築、増築、取壊したとき

土地の境界などの測量業務

その他、土地建物の登記に関するご相談



土地家屋調査士法人アドバンス

土地家屋調査士 船津 学
土地家屋調査士 須崎 満弘
土地家屋調査士 越智 一仁佐世保市木場町110番13号
TEL 0956-59-5242 0956-22-9118
FAX 0956-24-3752**株式会社 大成産業**

代表取締役 森 祐一郎

国土交通大臣Mグレード認定工場
〒857-1164 佐世保市白岳町50番地4
TEL 0956-33-7218 FAX 0956-33-7219
携帯 090-9790-1986
E-mail: mirai-nagasaki@ace.ocn.ne.jp
http://www.tsk3229.jpMATSUDA SHINYA
OFFICE OF
SHIRO-HIROSHI LAWYER**松田信哉司法書士法人**佐世保事務所
佐世保市高砂町4番11号 Tel.0956-25-1737
平戸事務所
平戸市築地町561番地1 Tel.0950-26-0077

http://www.ms-shiho.com

医療法人社団

吉見耳鼻咽喉科院長 吉見 龍一郎
医学博士〒852-8135 長崎市千歳町10-3
TEL 095-844-4336**秋山眼科クリニック**

院長 秋山 和人

〒850-0015 長崎市桜馬場1丁目7-7
TEL 095-821-0259 [日・祝日/休診]

社会福祉法人

佐々川福祉会〒857-0054 佐世保市栄町5番9号
TEL 0956-59-8222 FAX 0956-59-8280

新地の花火屋

錦昌號

有限会社 錦昌号

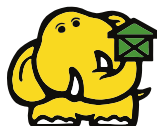
代表取締役 張 仁春

〒850-0842 長崎市新地町12-7
TEL 095-822-1935 FAX 095-801-4801**株式会社 堀内組**

代表取締役 山下 忠則

〒858-0908 佐世保市光町109番地
TEL 0956-47-2127 FAX 0956-48-5069

夢のある街、愛のある家。

**株式会社 小川工務店****株式会社 坂元工務店**

代表取締役 坂元 崇

〒857-1164 佐世保市白岳町1260番地1
TEL (0956) 31-7007 FAX (0956) 31-7557

相続・離婚・借金・交通事故・成年後見・パワハラ など

どのようなことでも
お気軽にご相談ください

大村さくら法律事務所

●必ず事前にご予約をお願いいたします

TEL:0957-47-9177

詳しくはこちらから➡



相談電話開局30周年



順不同

株式会社エフピーシー

代表取締役 竹本 学

〒850-0033 長崎市万才町6番35号

大樹生命長崎ビル1F

TEL 095-822-7605 FAX 095-822-7685

白山陶器株式会社

<https://www.hakusan-porcelain.com>

キリスト教(プロテスタント) 日本バプテスト連盟

長崎バプテスト教会

チョ ウン ミン
牧師 曹 銀珉

〒850-0003 長崎市片淵1丁目1-4

TEL 095-826-6935

代表取締役 山崎 秀平
Shuhei Yamasaki

有限会社 山崎マーク

〒851-3502 西海市西海町川内郷1106

Tel.0959-32-1423 Fax.0959-32-0892

Mobile.080-1712-9529

E-mail:info@yamasaki-mark.jp

URL:http://www.yamasaki-mark.jp

株式会社 BBホーム

代表取締役 松本 安永
yasunaga matsumoto

〒852-8105 長崎市目覚町 18-6-302

TEL 095-865-9578 FAX 095-865-9579

携帯 090-3199-9043

E-mail:bbhому-matsumoto@uma.bbiq.jp

有限会社 共栄組

代表取締役 辻村 光男

〒859-4824

平戸市田平町小手田免69番地の20

TEL 0950-57-1773 FAX 0950-57-1301

認定特定非営利活動法人

心澄 (しんじょう)

理事長 宮本 鷹明

〒850-0022 長崎市馬町48-1

長崎県市町村会館馬町別館3館

TEL 095-807-4937

Mail:info@shinjou.org

ホームページは
こちら

医療法人 和仁会

和仁会病院

院長 松本 晋

〒851-0103 長崎市中里町96

TEL 095-839-2051 FAX 095-837-1230

株式会社 井石

代表取締役 井石 八千代

〒852-8107 長崎市浜口町1番2号

TEL 095-801-3866 FAX 095-801-3869

有限会社 八千代産業

代表取締役 原田 雅子

〒852-8106 長崎市岩川町15番9号

TEL 095-846-1683 FAX 095-846-1683



CMS co., ltd

株式会社コメディカルサポート

代表取締役社長
馬場 幸樹
BABA KOUKI

〒811-1211

福岡県那珂川市今光4-148

TEL 080-3962-8040

E-mail:co.medical.coltd@gmail.com



HYODO DENTAL CLINIC

兵働歯科医院

院長 兵働 敏也

〒857-0034 佐世保市万徳町1-8

パールハイソ1F

☎0956-25-8135

健康で白い歯は親から子への最高のプレゼント



ONISHI YUKIKO LAW OFFICE

大西由紀子法律事務所

弁護士 大西 由紀子

〒850-0874 長崎市魚の町2番6号

魚の町ビル2階

TEL 095-829-2377 FAX 095-829-0471



〈総合建築事務所〉

永晃株式会社

代表取締役 北村 亮樹

〒857-0361 北松浦郡佐々町小浦免877-10

(本社) TEL 0956-76-7988 FAX 0956-76-7981



医療法人 清潮会

三和中央病院

介護老人保健施設 みどりの里

〒851-0403 長崎市布巻町165番地1

TEL 095-892-8191 FAX 095-892-8153

ピーすなう法律事務所

Law office Peace-now
www.peace-now.jp

弁護士 魚住 昭三

〒850-0033 長崎市万才町6番11号

三井ビル4階

TEL 095-816-1332 FAX 095-816-1333

合同会社 伴走舎

地域定着/地域移行/居住支援法人

代表 池田 純幸

Ikeda Sumiyuki

本社 〒852-8156 長崎市赤迫2丁目5-5-1016

TEL:095-807-5002 FAX:050-3588-7060

bansou183@mx.b.cncm.ne.jp

南部事務所

〒850-0982 長崎市柳田町3番地竹一ビル203



社会福祉法人 むつちろう会

理事長 石丸 佳奈子

〒854-0093 諫早市本野町642-6

TEL 0957-25-9222 FAX 0957-25-9223

司法書士法人

吉田合同事務所

吉田 修司

YOSHIDA SHUJI

司法書士 行政書士

中小企業診断士

簡裁訴訟代理関係業務認定

第329219号

〒850-0033

長崎市万才町6番33号

高木ビル3階

TEL 095-825-1723

FAX 095-825-1716

E-mail:shuji.yoshida@yoshida-jimusho.com

事務局長10年 小史

長崎いのちの電話の活動に関わって20年。事務局長として10年が経過しました。そんな私の目から見た10年間の歩みです。(常務理事・事務局長 田村繁幸)

2015(平成27)年

4月＝前任の川崎澄夫事務局長(令和6年4月ご逝去)の任期途中の退任を受けて、田村が事務局長に就任。

この年から「春の公開講演会」が定例開催となりました。講師は前田和明先生、テーマは「ストレス社会をどう生きるか」

2016(平成28)年

4月14日21時26分＝熊本・大分を襲う「熊本地震」発生。「本震」という言葉を初めて耳にしたのもこの時でした。特に熊本の被害は甚大で、熊本センターの旧知のお仲間の安否が知れず落ち着かない日々を過ごしたのを思い出します。

2017(平成29)年

社会福祉法人法制が大幅に変わり、「評議員会」が法人組織のトップに置かれるようになりました。私たちの場合は、相談員さん代表等で組織される「運営協議会」が実質的な最高意思決定機関であることは従前と変わりありません。

2018(平成30)年



9月＝「第17回九州沖縄地区いのちの電話ワークショップ北九州大会」開催。2年に一度地区内の相談員さんらの集う研修会です。懇親会では、北九州の富安先生を中心に参加者皆が壇上で合唱したことを懐かしく思い出します。

2019(平成31・令和元)年

11月5日＝開局25周年記念日。記念公開講演会では、川北稔先生に「中高年のひきこもり～80・50問題の実態と背景～」をテーマに講演していただきました。『ハチマルゴーマル』は、今は『キューマルロクマル』と、より深刻化しています。

2020(令和2)年

11月27日＝中根允文理事長(当時)が、長崎新聞文化章を受章。例年は多くの来賓や関係者で賑う贈呈式は、

「コロナ禍」で3名の受章者と夫々の付添数名のみ参列。私も付添の一名として寂しくも一生の記憶に残る式典参列でした。

文化・教育部門

長崎大名誉教授



中根 允文氏(82)

＝長崎市住吉町＝

精神医学研究に半世紀

「できるだけ社会の役に立ちたい」と語る中根氏
＝長崎市内(演武撮影)

「やりたいと思っただけで取り掛かっても、無理だと撤退したら何の意味もない。途中で手は抜けない」。精神医学の研究に打ち込み約半世紀。精神疾患の治療法の改善に尽力してきた。原動力は「社会に存在する差別や偏見を解消するにはどうするべきか」という思いだった。

戦前に韓国で生まれ、熊本県で育った。少年時代は内気で引きこもる。成長からは「社会で役に立ちたい」という思いが強く、医学の道に進むに至った。着目したのは精神疾患。「日本がかなり遅れている分野だった。患者は偏見にさらされ、身内からも邪見に扱われ、就職など社会生活にも困難が生じていた。だが、患者は真面目でいるような人が多い。「この人たちが偏見の対象にならないようにしたい」。そう、決意した。

1968年から勤めた長崎大で精神医学の研究グループを立ち上げ、抗精神病薬などによる治療の可能性を模索。一般心療科を受診する患者も一定数、精神疾患を抱えていることも明らかにした。治療実績を積み上げ、きちんと治療を受ければ疾患を改善できるとアピールすれば、世の中を少しでも変えられると思った。

研究室は79年に世界保健機関(WHO)の研究協力センターに指定され、世界中を飛び回りながら研究を続けた。県内では被爆者に対する医療サービスの向上に尽力。自殺予防を目的に電話相談を受け付ける社会福祉法人「長崎いのちの電話」の理事長として、ボランティアの養成や市民への啓発にも励んだ。

2003年に長崎市で起きた男児誘拐殺害事件では、事件検証会議の代表を務めた。「子どもに気になる行動を発見するだけだと偏見で終わる。専門職に情報提供するなどサポートしてほしい」と訴える。

この半世紀で精神疾患の研究はかなり前進した。だが、社会はいまだに差別と偏見に覆われていると感じている。新型コロナウイルス禍で見られた感染者を攻撃する風潮からも、世の中が変わっていないことを痛感した。「私は満足していない」。これからの社会の中で活動を続ける決意だ。(岩佐誠太)

※中根先生受章の喜びを伝える、当時の長崎新聞記事(11月27日)受章理由の一つとして「長崎いのちの電話」での活動が評価されたことは私たちにもうれしい限りでした。

2021(令和3)年

6月＝中根先生から古賀義先生に理事長バトンタッチ。8名の内、半数が女性理事さんに。大きな転換点となりました。

長崎法人会様のご支援開始から25年の節目の年に。変わらぬご厚情に一同心より感謝しております。

2022(令和4)年

5月＝「土曜の深夜・早朝 相談電話受信」開始から15年となりました。2008年5月から第3土曜日。2009年11月からは、第1土曜も加え月2回は終日相談体制を築きましたが、「365日眠らぬダイヤル」には道遠し、の感があります。

2024(令和6)年

6月4日＝「佐世保分室」で電話相談活動スタート。佐世保・県北地区から長崎市内に通う相談員さんの時間的・経済的負担軽減を図り、今後は平戸・松浦方面からの相談員希望者が増えることを切に願っての開設です。

10年を
振り返って



川崎前事務局長から後任を打診され、お受けしてから早や10年が経過しました。当初は川崎さんの残任期間限定のリリーフくらいの積りでいましたが、長く居座って、今日に至っております。右上は事務局長就任時の『たより』紙上、挨拶文とともに掲載された顔写真。左下は今のものですので、こうして客観的に比べて突き付けられると、確実に10年が経過し徒に馬齢を重ねていることがよく分かります。「人生百年時代」とはいえ、日々恙なくボランティア活動に精励出来ている今の内にしっかりとした後任事務局長を探すのが務め。開局30周年を迎えての課題です。



学校法人 向陽学園

理事長 鳥山 雅之

〒856-0825 長崎県大村市西三城町16
TEL 0957-52-3210 FAX 0957-54-3280



長崎県知事許可第10980号

代表 山口 直樹
Naoki Yamaguchi

〒852-8027 長崎市城山台1丁目1-2
TEL 095-861-6393
FAX 095-861-6394
携帯 090-8297-5505

お庭や花壇作り・剪定草刈・病害虫防除・観葉植物リースレンタル
園芸のトータルプロデュースで皆様の暮らしに花とみどりをご提案



ガーデニング&フラワーギフト SEIKOEN
有限会社 生香園

〒857-1152 佐世保市黒髪町18番10号
TEL 0956-31-2066
<https://www.seikoen.co.jp>

セブン-イレブン 佐々市場免店
佐世保吉井町店
佐々須崎免店

代表 池田 隆良

〒857-0312 北松浦郡佐々町市場免59
TEL・FAX 0956-62-6777

有限会社 クリエイト

代表取締役 菊池 光孝

〒852-8012 長崎市淵町5番13号
TEL 095-862-3219 FAX 095-862-3247

公益社団法人 長崎県宅地建物取引業協会会員
長崎県知事免許(11)第1714号

菊池不動産

代表者 菊池 光孝

☎095-862-3219
〒852-8012 長崎市淵町5-13 FAX 095-862-3247
E-mail: kikuchi_re@ybb.ne.jp HP: www.kikuchi-re.co.jp

あなたの街のハウジングパートナー
新築・増改築・リフォーム・設計施工
一般社団法人 全国古民家再生協会会員



(MR小浦駅前)
〒857-0361 北松浦郡佐々町小浦免67番地3
☎0956-63-3770 FAX 0956-63-5826

横尾みちる税理士事務所

税理士・行政書士 横尾みちる
Yokoo Michiru



〒857-0311 北松浦郡佐々町本田原免236番地の3
TEL 0956-62-4162
FAX 0956-62-4163
E-mail: seccati@herb.ocn.ne.jp
登録番号 T7810778802214

社会福祉法人 光の子福祉会

理事長 末瀬 昌和

〒859-3202 佐世保市上原町749-1
TEL 0956-39-3230
FAX 0956-39-3226
Mail: hikarinoko@iaa.itkeeper.ne.jp



有限会社 内野塗料店

代表取締役 柏山 勝

〒852-8022 長崎市富士見町13番26号
TEL 095-862-5132 FAX 095-862-3167



出光興産販売店
大同興産株式会社

代表取締役 坂倉 雅敏

佐世保給油所 佐世保市三浦町4-11
電話 0956-22-5041
FAX 0956-24-5041

学校法人

純心女子学園

理事長 山田 幸子

〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地
TEL 095-846-0084 FAX 095-840-0470



長崎浜町店 / TEL 095-822-1455

有限会社 マロニエ
代表取締役 三山 格

ももたろう屋



西海振興・農産部
代表 北村 良幸
北松鹿町町 090-8712-4467

長崎いのちの電話開局30周年記念チャリティー

『花と名曲』いのち奏でるコンサート 特別公演
京都カルテット目で見えるいのち、
耳で聞きたいのち。
「生きる」をテーマに
池坊専好による
いけばながステージを彩る
伝統・芸術・文化の融合。

いけばなパフォーマンス

華道家元池坊 次期家元 池坊 専好

いのちをいかすという精神に基づき、西
国三十三所の各寺院やニューヨーク国連
本部で世界平和を祈念した献花を行う。
音楽や能、テクノロジー等の他分野との
コラボレーション活動も展開。公益社団
法人 2025 年日本国際博覧会協会 副会
長・理事・シニアアドバイザー。園城 三花
(フルート)京都市生まれ。パウル・マイゼン氏に師事し、
ミュンヘン音楽大学卒業。在学中からヨーロッ
パ各地日本での演奏活動を展開。2001年「京
都府あけぼの賞」受賞。2017年から 室内楽・
フルートセミナー講師としてドイツへ招聘され
る。2018年社会福祉事業への募金のため「花
と名曲」シリーズを立ち上げ全国で継続的に
行っている。釋 伸司
(ヴァイオリン)京都市立芸術大学卒業。在学中より、テレマン
室内管弦楽団に在団し、日本、ヨーロッパ各地
の演奏会にソリスト、コンサートマスターとして
出演。サントリー音楽賞他、受賞に貢献95年に
退団。マイハート弦楽四重奏団、岡山フィルハ
ーモニック管弦楽団首席奏者他、日本各地の
オーケストラの客演首席奏者、企画等、様々な
分野で活躍している。神戸女学院非常勤講師。松田 美奈子
(ヴィオラ)京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。第二
回宝塚ベガ音楽コンクール室内楽部門入賞。
カザルスホールヴィオラスペース公開マスタ
ークラスで川崎雅夫氏に師事。ヴァイオリンを
故東儀祐二、岸邊百穂、久合田緑、ヴィオラ
を永藤照夫、山本由美子、A.シュカーニク、M.
ケイティムスの各氏に師事。元京都フィルハー
モニー室内合奏団ヴィオラ奏者。細谷 公三香
(チェロ)ヴェローナ国立音楽院に学び、首席で卒業。イタ
リアにて数々の室内楽コンクールで優勝、ザルツ
ブルグモーツアルテウム大学院、ミュンヘン音楽
大学にて更に研鑽を積む。これまでに兵庫芸術
文化センター管弦楽団、オーケストラジャパンに
在籍し、現在は定期的にソロリサイタルを行う他、
オーケストラ、室内楽など幅広く音楽活動を行っ
ている。『京都カルテット』 平成元年より園城三花、釋伸司を中心にアンサンブル演奏を始め、ヴィオラとチェロが加わり、
令和元年「京都カルテット」として、「いのちの輝き・尊さ」をテーマに疲れた心に寄り添い、いのちの大切さを思えるひと
時をともに過ごすトークコンサートを全国各地で展開しています。11/30²⁰²⁴ 土

14:00 開演 (13:30 開場)

長崎 浦上天主堂 (長崎県長崎市本尾町1-79)

※長崎いのちの電話の募金ボックスにご協力ください。

[チケット]

入場無料 (全自由席)

[チケット・問い合わせ]

長崎いのちの電話事務局

☎ 095-843-4410



チケット申込QR

〈曲目〉

スディル: Pictures of Kyoto
パリは燃えているが
アメージンググレース
愛の讃歌 / 他

※出演者、曲目は変更となる場合がありますのでご了承ください。 ※就学前のお子様の同伴、入場はご遠慮ください。

〈協力〉 愛媛県ハッパ橋本店

ROMAN ロマン・宮忠

瀧池組

清水三年坂美術館

MYSTAYS
MYSTAYS HOTEL GROUP

華道家元 池坊

Shinmyo

主催・企画：いのち奏でるコンサート